

議会報告会実施報告書

開催日時	平成26年4月18日 19時00分 ~ 20時45分
開催場所	王越公民館
出席議員	(班長) 中河哲郎 (司会) 野角満昭 (記録者) 大藤匡文 (議長) 大前寛乗 (副議長) 若杉輝久 (班員) 村井孝彦, 野角満昭, 末包保広, 植條敬介 前川昌也, 大藤匡文, 中河哲郎
参加市民数	20人
実施内容	<p>議会報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会挨拶 大前寛乗 ・出席議員自己紹介 ・新年度予算の概要 前川昌也 ・委員会報告 総務消防委員会 植條敬介 教育民生委員会 末包保広 市民建設委員会 村井孝彦 ・質疑応答 ・意見交換会 ・閉会挨拶
	<p>質疑応答</p> <p>委員会報告に対する <質疑> ゆるキャラについて、新聞等に掲載されていたと思うが、その時の一番最初の言葉が、「今更ですが」という言葉でした。私も今更なんだという思いで見ました。350万円~460万円かな、予算計上していますが、これを作る意義というのがあるのか。非常にいいことだとは思いますが、350万というと、市の財政からすると、わずかな額かもしれませんが、でも、市の税収は我々が負担しているわけですから、その講評をひとつ聞きたいです。</p> <p>また、全国的に問題になっていますが、今、市の人口がどんどん減ってますよね。若者の流入を増やして、人口を増やすということも考えていかなくてはいけないと思うのですが、議員の皆さんがどのようにお考えになっているのかお聞かせ願いたいと思います。</p> <p><答弁> 今更ですよ本当に。ただですね、今回、KBNでの議会報告会の宣伝で共演させていただきました。かわいいですよ。これを本当にどういう風に活用しようかというのはこれからの話かもしれませんが、今更というよりは、これからの坂出をPRす</p>

る手段として、大きな可能性があると思います。実は、これが彼の名刺なんです。これを彼が挨拶した人に必ず渡すようにしているんですが、なるほど、実際ですね横で接すると、坂出を代表するものすべて網羅してる、これを使って坂出を売るっていうのは一つの手段としてはいいなという風に率直に思っています。確かに、予算が350万円という非常に貴重な予算ですけども、それ以上の効果を出すように、実際これを運用させますのは、にぎわい室というところですけど、ひとつ皆さんも、前向きにこれを取り上げていただきたいですね。彼の活躍の場を整えるご協力をいただきたいと思います。そこでご紹介ですが、実は、この「さかいでまろ」というのは、坂出市で行うイベントに参加できます。申請書を出していただいて、本当にさかいでまろが効果的な活動ができるということになれば、派遣できます。どんどん使っていただきたい。

<答弁> 人口減少問題について、それはもう本市だけではなくて、各市町村で大きな問題になっています。若者が段々少なくなる中、どうにかして人口を増やしていこうと。坂出の場合も年々人口が減ってるわけですが、本当に小さなことですけど、先ほど、新しく補助事業で新婚世帯の家賃補助であるとか、そして、ご存じのように、一昨年、保育料の10%削減とか、まあそういうことで、若い方が住みやすい、生活しやすい坂出市を目指して、市長サイドと協議をしながら、私たちも知恵を絞っていくわけですけども、中々、本当にこれだという光明があるようなものが見つけられないわけです。ただ受け身で、何もしないよりも、少しでもそういう若い方が住みやすくなるように、我々も、それぞれが知恵を絞って、やっていきたいなと思っております。また、こういうことをやればいいんじゃないかというお知恵があれば、アドバイスをいただければ有り難いと思います。

<質疑> 先日、老人大学の時に、市長が来られまして、その時にもお願いしたのですが、今、循環バスが運行していますよね。王越は定期バスが運行しているから循環バスは駄目だという話をお聞きしました。王越はどんどん過疎化が進んでまして、今から10年経った時に、今の交通の問題で、免許証の返納うんぬんという問題があると思うんですけども、免許証を返納すると、買い物難民ができるんですね。今、2,000円ほどの補助が出るというような話がありましたけど、バスに乗るチャンスそのものが将来は少なくなるんじゃないかな。今後の問題として、特に僕なんかもう70過ぎましたけど、10年後、免許証の返納が出来ないんですね。王越に住んでる以上。そんな場合、もう少し交通の便

を考えていただいたらと常日頃考えていますがいかがでしょうか。

<答弁> 買い物難民ということばがありますが、その通りなんですよ。例えば、そういった方に移動販売というのも出てますけど、その前に、公共交通機関をどのようにやるかということで、現実には、基本的にデマンド型乗合タクシーも該当いたしますし、循環バスも予算の都合で2台しか運行できない状態です。目指しているのが、乗りやすいバスにしようという話です。それは、低床化、つまり車イスでも乗れるというのが前提です。それからもう一つは、いわゆるフリー乗降というのが世間一般ではなされています。そういうフリー乗降の可能性。このあたりを琴参バスとの関係もあり、採算のとれる範囲でどこまでやれるかという問題がある。また、停留所の座席とか、停留所の雨除けなどの施設、そういう面で琴参バスとのキャッチボールを開始しているというのは事実でございます。乗りやすい路線バスにしていくというのが、今後の検討課題と考えています。ご理解いただきたいと思えます。

<質疑> 資料の地域の元気交付金について、「日本経済再生に向けた緊急経済対策」と記載されていますが、国からの交付金が2億5千5百万円ということで、目的と実際に交付金を活用して実施している事業がなんか意図が違うような感じがするんですが、この辺ちょっと説明していただけないですか。

<答弁> 名称としては元気臨時交付金ということで、元気が出るような内容でと思えるのですが、先ほど説明でもありましたように、昨年1月の国の補正予算の方で1兆3980億円、国の方で予算計上されました。その中には、例えば農林水産業や厚生労働省の関係とか、様々な省庁の中で、経済対策の地方負担が非常に大きいということで、その交付金を活用して事業実施しているということなんです。今回、先ほども申し上げたとおり、平成25年度では、坂出市の方ではこの交付金をだいたい予算の8割くらいを、充当することができまして、公立小学校の改修、便所の改修、港湾対策の高潮の対策の補助として交付金を使っています。26年度も交付金を基金として積み立てて、26年度も継続して使っていくこととなっています。ですから、この名称も市の方が決めたわけではありませんので、国の方がこういった形で経済対策という形で全国に交付したということになりますので、それを活用させていただいたということになります。

<質疑> 高潮対策について、私どもの住んでいる西脇地区は、若干嵩上げしてくれています。わずか20cmくらいの嵩上げで、

	<p>高潮が防げるという計算のもとにやられているのでしょうか。</p> <p><答弁> あの高さの基準にしているのは平成16年の高潮被害の状況です。平成16年の雨と高潮と同じような状況であれば、そのあたりは可能であろうということで、みなと課のほうは進めているのではないかと思います。それ以外の大きい地震があった時の高潮なり津波になってくると、ちょっと想定がついてない状況もありますので、今後、すぐに対応というのは難しいかもしれません。</p> <p><質疑> 水門の逆流対策は含まれているのですか。</p> <p><答弁> ちょっとどこまでできているのかというのが今すぐには分かりませんが、できるだけ地域の皆さんからの要望を聞く中で、対応していけるものは今までもってきていると思います。</p> <p><質疑> 高齢化が進んで、医療費が増大している結果として、国民健康保険の状況がちょっと厳しいなというのがありますが、ひとつは病気にならない取り組みというのを市が、率先してやっていくのも必要じゃないかと思いますけども、施策として考えておられるものがありましたらお聞かせ願いたい。</p> <p><答弁> 本市の国民健康保険特別会計、その中の医療給付費、また、後期高齢者支援金、介護納付金の負担の増加等により、平成20年度以降、単年度収支の赤字が続いております。これまでは繰越金によって、収支のバランスを保ってきましたが、繰越金も底をついて平成25年度決算では、実質収支の赤字が見込まれています。また、平成26年度も、さらに収支の悪化が見込まれていることから、今回、一般会計からの繰り入れ分の増額と合わせて、税率等の改正を市民の皆さんにお願いしたわけでございます。医療費を抑制するために、病気にかからないとか、皆さんが健康で長生きできることが大事です。介護関係ではいろんな体操を奨励していて、そういったことを中心に、それぞれ皆さんが、声掛けをしていただいて、ラジオ体操にしてもそうですけど、体を動かしていける、そういうことから、少しでも医療費の負担をなるべく減少又は維持できるように、私たちもそういうことをそれぞれ議員が知恵を絞ってやっていきたいなと思っています。</p>
意見交換	<p><意見> 坂出の中でも過疎地といたら、王越ですけど、脑梗塞とか心筋梗塞の場合は、坂出からだとか救急車が来たとしても、後の後遺症とか、死ぬ確率がものすごく高い。予算が大変ですが、片道だけでもこっちで救急車を用意してもらえればいいなど。心筋梗塞とか脑梗塞は麻痺がものすごく残るとかいうのがあるので、町の人はずぐ病院に行けますけど、この過疎地だったら、片道の2倍、運ぶのであれば倍ぐらいの時間がかかる。死亡すると</p>

か、後遺症がものすごく残って、後はどうにもできないという問題も、最低限こっちに1台ぐらい常備してくれれば命も救えると思うんですけど、費用は伴いますが、考えてみてください。

<答弁> 例えば、白峰中学校の横に、屯所がありますよね。今までもそういったところに、配置して欲しいといった要望もあつたのですが、消防署員の定数の問題、あと、今は道がだいぶ良くなったという事もあって、そういったところにはなかなか難しいというのが消防本部の考えとは思いますが、今の話というのは切実なものだと思うので、そのあたりは委員会の方で。

<意見> 個人で病院に行った場合、病院で受付してくれるかどうか、大きな問題があると思います。救急車の場合は、連絡して、良い病院に連れて行ってくれる。きちんとした医者がある、それがものすごく私達には心強いんです。救急車がなかったら、自分でどこの病院に行ったらいいか分からない。救急車が有るのと無いのとでは、全然変わってくると思う。やっぱり命より大事なものは無いと思うので、予算の問題もありますが、ぜひ考えていただきたい。

<答弁> 王越には高齢化の問題があり、そのあたりは非常に気になる点だとは思いますが、今、議長もいらっしゃいますし、みんないらっしゃいますので、その中で十分お話しできたらと思います。我々がすぐに答えられる範囲のものではないので、申し訳ございません。